

静岡赤十字に片頭痛外来

発作抑制、新薬で治療

静岡市葵区の静岡赤十字病院脳神経内科が今春、片頭痛発作の発症抑制外来を開設した。片頭痛の発作を起すこりにくくする新薬「片頭痛発症抑制薬」を使った治療を行う。

専門外来は県内で珍しく、片頭痛で長年悩まされてきた患者から注目されている。

新薬は、片頭痛を引き起こす主な原因物質の一つ「カルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）」が受容体と結合するのを阻止

し、発作を起すこりにくくする。他の薬で効果が得られなかった患者が対象になる。月1回の皮下注射薬で、3カ月継続して効果を確認する。

同病院によると、投薬によって発作の消失や発作回数の減少が期待できるといふ。同病院脳神経内科の今井昇

部長は「発作自体が軽くなり、生活への影響は大きい。従来の薬で効果が出なかった患者さんは一度受診してほしい」と話す。

片頭痛は国内で約1千万人いるとされる。これまで国内で使われてきた予防薬は、抗てんかん薬など他の疾患のために開発され、思うような効果が得られなかったり、眠気などの副作用で飲みにくかったりする患者が少なかつた。

新薬は初回に2本、2カ月目以降は月1本注射する。治療は保険適用。

予約は紹介のみ。問い合わせは同病院地域医療連携室へ電054

(260)7634
へ。
(社会部・佐野由貴利)